

知っていますか 川崎病

正式名称は「小児急性熱誠皮膚粘膜リンパ節症候群」ですが、病気の発見者の川崎先生の名前から川崎病と呼ばれています。

全身の血管に炎症が起こり重症の心臓後遺症が残る病気で、4歳以下の乳幼児が患者数の80%を占めています。今は治療薬の進歩で死亡例は少なくなりましたが、いまだに原因がよく分かりません。

主な症状は5日以上続く高熱や両眼の充血、発疹などで、急性期には1〜2割の人に冠動脈瘤（コブ）ができて突然死することがあります。

川崎病の主な症状

- ◆発疹を伴った高熱が続く
 - ◆両眼の充血がある
 - ◆唇や舌が真っ赤になる
 - ◆首のリンパ節が腫れる
 - ◆手足の軽いむくみがある
- 川崎病は早期発見による継続的な治療が必要です。川崎

病と思われる症状があれば専門の小児科で診断を受けましょう。



乳幼児期は

ナッツ類に注意

消費者庁は先月、乳幼児の誤嚥について注意喚起しました。3歳未満の乳幼児がピーナッツや大豆を食べると、誤って気道に入ってしまうケースが多発しているとのこと。これは乳幼児がかみ砕く力や飲み込む力が未熟なために起きやすいのです。気道に入ってしまうと窒息や気管支炎・肺炎を起こして入院が必要な場合もあります。

長く続く咳の原因が分からず、詳しく検査したら気管支でピーナッツ片が見つかったケースもあります。乳幼児期は豆類は控えることが大切です。



お薬は飲めてますか

病気の診断がついて薬を処方してもらったのに、こどもが薬を飲んでくれない。こんな経験はありませんか。1〜3歳のこどもの約4割が服薬拒否の経験があるそうので、早く病気を治したいお母さん達の頭を悩ませるところです。

こどもが薬を嫌がるのは、苦味やザラツキなど口に残る違和感があるようです。また保護者が飲ませるのを忘

れたり、具合が良さそうなので薬を途中でやめた、という場合も少なくありません。「良薬は口に苦し」と言ったのは昔の話。今は粉薬や水薬もイチゴ味やオレンジ味などがあり、随分飲みやすくなっています。乳児の場合は指先で上あごにつけたり、アイ스에混ぜる工夫もありますので、飲ませ方が分からないときはご相談ください。



薬を飲むのは病気治療の基本です。物事を理解できる年齢になるまでは、こどものイヤイヤに負けないで粘り強く対処してください。

野外で遊ぼう

筑後の桜名所めぐり

梅や菜の花から始まった春の訪れを告げる花々。この時期はいよいよ桜の出番になり、各所で花見のイベントが開催されます。今月はそんな桜の名所を取り上げました。近場でも意外と知らなかった名所が沢山あります。天気の良い日はこども達とお弁当を持って出かけたいですね。

秋月、杉の馬場

九州の小京都と言われる朝倉市の秋月城下町の城跡、「杉の馬場通り」約500メートルに桜のトンネルが出現。沿道には茶屋やお土産品が並び大勢の人達で賑わいます。

お勧めのお店

◆黒門茶屋

民芸品のお土産、淡水のりの川茸定食、手づくりくずもちなどがあります。

◆甘味処ふる里

くずきり、ぜんざい、ところ天、あま酒などがお勧め。



浅井の一本桜



耳納連山の麓（久留米市山本町）にある一本のヤマザクラです。幹周りが4.3メートルあるこの古木は市の保存樹木に指定され、満開時は多くの写真愛好家も訪れてにぎわいます。夜のライトアップで湖面に浮かぶ桜も幻想的です。

発心公園の桜

ここの桜は歴代の久留米藩主が花見をした場所として知られています。高台に位置するので筑後平野を展望しながらの桜が美しい。ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ヤエザクラなど約700本が咲き誇ります。

巨瀬川堤防に約1000本のソメイヨシノが連なります。桜のトンネルと土手の菜の花のコントラストを楽しみながらの散策が素晴らしい。

巨瀬、流川の桜並木

甘木公園丸山公園の桜 朝倉市の憩いの公園となっているこの公園は県下屈指の桜の名所です。公園中央のひょうたん池を囲むように約4000本の桜が咲き誇ります。

